

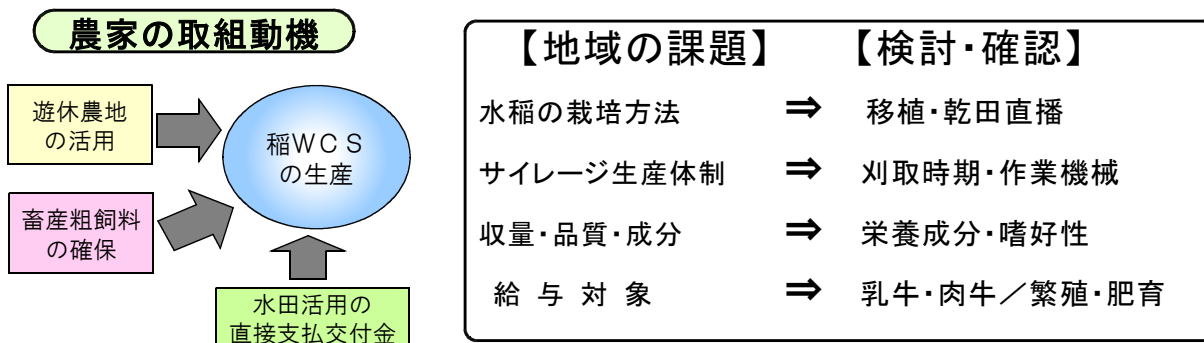
地域資源を生かした自給飼料の活用による 安定した畜産経営支援

令和5年度 (広域 畜産)

1 課題の背景

渡島管内の畜産と水稲の複合経営では、水田活用の作物として稲WCSが注目され生産を試みる農業者もでてきている。

今年度は、稲WCSの生産状況の把握と利用に向けた品質の確認を行い、肉用牛および乳牛で有効利用ができるよう活動を展開した。



2 活動内容と結果

(1) 主な活動内容

時期	方法	回数 (人数)	主な内容
4/20	講習会	(12人)	・ 乾田直播の栽培について ・ 稲WCSの生産と利用について
5～7月	個別巡回	2	・ 栽培状況の確認
8月	個別巡回	2	・ 水田ほ場での収穫作業の確認
10～12月	個別巡回	3	・ 稲WCSの品質確認
11～2月	個別巡回	3	・ 稲WCSの給与状況確認

(2) 稲WCSの取組状況

木古内町で今年度から稲WCSの生産利用に取り組む農業者を対象に調査を行った。(表1)
ア. A氏は、苗移植による栽培と一部乾田直播に取り組んだ。

前作が牧草地のほ場で、施肥は無施用とした。

イ. B氏は、水稲栽培が未経験であったため育苗を近隣の水稻農家に委託し、前作が牧草地で昨年基盤整備したほ場を使用した。

表1 稲WCS取組農家概要

農業者	経営内容	取組面積 (ha)	栽培方法
A	褐毛一貫経営・水稲	8.5	移植・乾田直播
B	酪農・褐毛繁殖	0.7	移植(育苗委託)
C	褐毛肥育・水稲	0.2	移植



乾田直播ほ場

(3) 収穫状況

本年の水稲は気温が高く推移し生育が早く、幼穂形成期後の7月中旬以降には、各ほ場で落水した。好天が続き、ほ場は十分に乾燥した。

出穂後も高温の日が継続したことで登熟が例年よりも早く進み、収穫時(8/20頃)には糊熟期から黄熟期となった。収量は乾田直播が移植と比較しやや少なかった(表2)。

ほとんどのほ場で、トラクターが入れるくらいほ場が乾いていたため、牧草の収穫機械により刈取りを行った。刈倒した稲は、ほ場で1日乾燥後、ロールラップサイレージとして収穫された。

通常は、サイレージの調製時に品質保持のため乳酸菌等の添加剤を使用するが、今回は何処も使用していなかった。

表2 調製前収量調査(8/16)

農業者	栽培方法	生収量 (kg/10a)	水分 (%)
A	乾田直播	1,825	70.5
	移植	1,994	64.1
B	移植(育苗委託)	2,035	66.6



稲WCSの収穫作業

(4) 品質・給与状況

品質を安定させるため収穫調製から2ヵ月以上置いてからロールサイレージとして給与が開始された。嗜好性も良く、成分も牧草並で良好であった。

表3 給与状況

農業者	給与対象	収穫直後 生給与	貯蔵後 給与開始	サイレージ 給与
A	褐毛和種肥育牛	—	11月中旬	嗜好性良好
	褐毛和種繁殖牛	あまり食わない	1月予定	
B	ホルスタイン搾乳牛	食わない	10月下旬	嗜好性良好
	褐毛和種繁殖牛	食べた	10月下旬	嗜好性良好



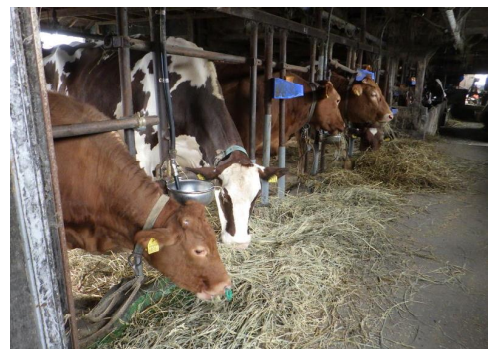
完成し給与中の稲WCS

【A氏の感想】

- ・試験的に肥育牛に給与しているが肉質の変化を確認したい。今後、繁殖牛にも給与する。
- ・ラップサイレージにする事で匂いが良くなり嗜好性が向上し牧草と同様に利用できそう。

【B氏の感想】

- ・生の時は食べずに心配したが、ラップにして牧草より良く食べるようになった。
- ・好天により熟期が進んで水分が少なくなった。
- ・牧草と組み合わせて乳量を見ながら給与する。



嗜好性が良く競って食べる

3 今後に向けて

- ・今年は、天候に恵まれ良質のサイレージとなったが、調製時の天候により作業性や品質への影響が予想されるため調製方法の検討が必要である。
- ・成分分析の事例が少なく、栄養価の確認と長期的給与による状況を確認する。
- ・次年度は、作付面積、利用者ともに増える予定であり、更に安定した生産が求められる。